

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月31日

事業所名 まさき園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である		○	職員配置の月案を作成して体制を整えている	児童に対して職員数が少ないときは配慮がよわい為、改善の余地はある
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ことばの理解が弱いお子様に対して視覚的ツールを利用しながら取り組んでいる	視覚的な配慮、バリアフリー化になっている。行動が著しい方に対しての危険予測ができていないことがある。今後、活動場所の利用方法を計画的にするなど危険がないようにしていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		教材は活動終了後にアルコール消毒を実施している	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		金曜日に職員ミーティングを実施している	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価をいただき、改善目標をたてて毎年改善に向けて取り組んでいる	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人のホームページにて公開している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修に参加したあと、学習会にて全職員にフィードバックしている	隔月で学習会を実施して資質の向上の機会が設けられている。来年は就園、就学支援について学びを深めていく
適切な支援の	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		支援会議にて計画書の見直しを実施している	よりアセスメントを重視し、子どものすがたが共有できるようにしていく
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		支援会議にて計画書の見直し、設定している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		各担当グループで行っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	ホワイトボードで役割を示し朝のミーティングで確認している	今後も継続していく	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	毎回10分間ミーティングを実施し共有している	今後も継続していく	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援の検証、確認ができるように細かく記録をとっていく	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	支援会議にて計画書の見直し、設定している。懇談を通して保護者様よりモニタリングを実施している		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	保護者様より情報をいただきながら支援している	緊急時の対応について再度確認していく	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	電話での情報共有を多くとっている	継続して取り組んでいく	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		定期的に連絡会議や報告会などが行えるようにしていく	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	県の派遣事業を活用して専門職員に指導していただいている	発達支援センターだけでなく、もっと保健センターとも関わって児の家庭支援を行っていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		4、5、6月あたりに併用通園先(幼稚園、保育園)に訪問し定型発達の子供の姿を理解することが、療育に生かしていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		まさき園では何に取り組めるのかひとつ決めて強みになるように職員で話し合う
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	利用契約時に説明している	今後も継続していく	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	○			
	34	○		主に保護者様の送迎であり、毎回顔を合わせて話をする機会があり都度、相談できている	今後も継続していく
	35		○	・毎月単独通園むけの親子活動を実施した ・親子サロンを年に2回実施し、保護者同士が顔を合わせる機会を設けた	・まさき園の卒園生のOBとの交流会(就学児童の親と意見交流会)などを検討する
	36	○			
	37	○			
	38	○			
	39	○			視覚的支援も含めながら支援していく
	40	○		親子サロンを設けて、地域の方にも参加していただけるように情報を発信している	今後も継続していく
非常時等の対応	41	○			保護者さんを交えての訓練は全くないため、機会を作っていく
	42	○			
	43	○			
	44	○			・保護者からの指示のみで、現段階において医師からの指示書はいただけていない
	45	○			
	46	○		・なるべく子どもと2人きりにならないようにしている ・外での業務の話をしなければいけない時に個人名をイニシャルにして分からないように意識している	今後も継続していく
	47	○		・児発管と話し合い、身体拘束ゼロで取り組んでいる	今後も継続していく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。